

2020年5月29日に報道された内容に関する弊社見解

平素はいつもお世話になりありがとうございます。

2020年5月29日に一部報道において、「次亜塩素酸水、有効性は確認されず」等といった、当社とは全く異なる見解が発表されました。この件で、弊社にはお客様やお取引先様から多数の問い合わせが寄せられております。

今回の報道に際し、弊社は、今まで蓄積されている様々な試験データに基づき、いつでも取材に応じる用意ができております。

弊社の電解水は、薬機法における広告上法的区分の関係上、表現できないこともありますが、主に安全性につきまして研究経緯と検証結果をもとに弊社見解として報告させていただきます。

1. 弊社高酸化水の機能性と安全性について

- 弊社高酸化水は、3室ダブルイン型電気分解システム(特許技術:5253483)で生成された次亜塩素酸水です。(pH、ACC濃度は用途に応じて異なります)
- 弊社特許技術による機能性は、再生医療の現場でも多く使用されており、20超の国立大学及び研究機関との共同研究により、これまで世界的な論文と学会発表をし続けてきております。
- 弊社高酸化水は、食品衛生法に基づく清涼飲料水の規格基準をクリアしており、口に入っても誤飲しても安全であることを確認しています。
- さらに、医薬品会社との共同研究を通じて、細胞毒性試験も行っており、人体への安全性も確認しております。
- 現在、国立大学病院を含め、様々な医科歯科領域の病院やクリニックに導入されており、手術時の体内洗浄、口腔内の手術・治療、目の治療・洗浄などにも使用されております。
- 弊社高酸化水を使用されている某介護施設では、2012年から現在までの8年間、高齢者の口腔洗浄に使用されております。誤飲リスクが伴う認知症の高齢者にもうがいとして使用していますが、誤嚥性肺炎など健康阻害が引き起こされた症例は報告されておられません。

2. 高酸化水(弊社次亜塩素酸水)と他の次亜塩素酸水の製造方法の比較について

- 次亜塩素酸水には、電解方法、電解質、pHにより性能品質に大きく違いがあります。
- 他の次亜塩素酸水には、次亜塩素酸(HClO)以外に、50%近く、多い場合は80%近くのHClやNaClなどの電解質が含まれます。そのため、電解質による腐食や安全性、機能の持続性に問題が生じてしまう可能性があります。

3. 2020年5月29日のNITE中間報告における一部報道について

■ 「次亜塩素酸水、新型コロナへの有効性は確認されず(NITE調査)」という報道に対して

2020年5月29日のNITE報告の内容は、全ての次亜塩素酸水を検証した報告ではなく「市場商品群のなかには効果か認められない粗悪品も含まれるため、継続的に検証を続ける」という中間報告に過ぎず、全ての次亜塩素酸水の有効性が否定された最終結果ではありません。なかには有効性が認められる商品も含まれておりました。また、現時点のNITE検証対象商品群に、3室ダブルイン型電解システムで製造された弊社高酸化水は含まれておりません。上述の通り、弊社高酸化水は安心安全であり、NITEの継続検証に対し、弊社高酸化水の検証及び情報提供には積極的に働きかけている所存でございます。

■「次亜塩素酸水、噴霧での利用は控えて」という報道に対して

2020年5月29日のNITE報告は、次亜塩素酸水の噴霧による新型コロナに対する有効性に明確な解答が得られていないという内容で、NITEが次亜塩素酸水の噴霧を控えることを推奨する内容とはなっておりません。掲載された見出しは、NITE中間報告に対して、さも結論であるかのように伝え、かつ正確な中間報告の内容を曲解して報道したものであると弊社では考えています。

なお、2020年5月29日NITE中間報告に記載されている、各国の衛生当局の見解は、あくまでも消毒剤(医薬品)の空間噴霧に対する見解であり、次亜塩素酸水の空間噴霧に対する見解ではありません。現時点、次亜塩素酸水の空間噴霧に対して、国が定めた明確なガイドラインやルールは存在しない状況ですか、上述の通り十分に人体に安全な高酸化水を噴霧することで、健康被害を与えることはありません。

以上

2020年5月30日

株式会社 レドックテクノロジー 代表取締役 片山晶彦